

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「人物像について考えたことを伝え合おう」 教材名「大造じいさんとがん」

2 単元の目標

場面の展開と描写の関係を捉え、文章の構成や展開を理解できる。描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①場面の展開と描写の関係を捉え、文章の構成や展開を理解している。 (〔知識及び技能〕(1)力)	①「読むこと」において、描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えている。(C(1)イ・C(1)エ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

人物相互の関係と心情を場面の描写から捉え、大造じいさんの人物像を考える。行動の変化と情景の表現が、読む人にどのような印象を与えるかを検討する。学習指導要領のC(1)イ・C(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

行動と情景を対応させた後、その場面の前後を読む。情景の印象が異なる場合は語句の根拠を比べる。人物像の言葉を選ぶ際は、反対に見える行動も検討する。おおむね満足できる状況は、描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画(全7時間)

次	時	学習活動	評価規準(評価方法)
第1次	1	○全文を読み、大造じいさんへの初めの印象を記録する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○相手との関係と場面ごとの行動を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3	○心情に関わる行動と情景を読み合わせる。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○前後の場面を比べ、人物像を表す言葉と根拠を説明する。	思①（発言・学習記録）
	5	○人物像について文章を書き、表現の効果も確かめる。	学習状況を見て支援する。
	6	○文章を交流し、異なる人物像の根拠を読み直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	7	○初めの印象からの変化と描写の読み方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/7)

(1) 本時の目標

描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「大造じいさんの人物像を表すなら、どの行動と情景を合わせて考えますか。前後の場面で見え方はどう変わりますか」 【めあて】人物相互の関係と心情を場面の描写から捉え、大造じいさんの人物像を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・行動だけでなく周囲の描写にも気持ちが表れているようだ。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「大造じいさんの人物像を表すなら、どの行動と情景を合わせて考えますか。前後の場面で見え方はどう変わりますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・行動だけでなく周囲の描写にも気持ちが表れているようだ。 ・同じ相手への態度が前後で変化している。 ・強いという言葉だけでは説明しきれない。	行動と情景を対応させた後、その場面の前後を読む。情景の印象が異なる場合は語句の根拠を比べる。人物像の言葉を選ぶ際は、反対に見える行動も検討する。 想定する難しさ：最後の心情だけで人物像を作る。情景を感情と機械的に一対一で対応させる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えている。 (発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・強いという言葉だけでは説明しきれない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「大造じいさんの人物像を表すなら、どの行動と情景を合わせて考えますか。前後の場面で見え方はどう変わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

